

外郭団体経営健全化方針の概要と取り組み状況

【若宮大通駐車場株式会社】

経営健全化方針の記載内容	令和2年度の取り組み結果
・若宮駐車場(株)が現在抱えている借入金や施設の保有コストの問題などを解決し、事業の採算性を大きく向上させる。	・新型コロナウイルスの感染拡大のため、地域行事が中止となったため、名古屋市美術館・科学館来訪者への回数券サービスの継続だけに留まった。 ・定期の大口営業に成功し、40台分の増収を図ることができた。 ・施設については、緊急性のあった、湧水排水ポンプの取替工事などの設備投資を実施することができた。 ・四者連絡会議において、当社の経営状況などの認識を共有し、新型コロナウイルスの影響下での、新たな経営改善方策や適切な返済額について協議し、合意することで、経営の安定化と借入金の返済を図った。
・まちづくりとの連携や駐車場の新しい使い方の検討など時代の変化に伴い駐車場に対するニーズが大きく変化していることから、都心のにぎわい空間創出に向けてのフリンジ機能の強化や、人や物の移動の拠点機能といった新たな機能の付加など新しい駐車場のあり方を検討していく中で、若宮パークを今後の栄地区のまちづくりと連携した新しい駐車場として活用していく必要があると考えている。そのためには、市が主導的役割を発揮し、長期的に安定した事業継続が可能な新たな枠組みを構築する必要がある。	・今後のあり方について、栄地区のまちづくりの進捗とともに、若宮パークをまちづくりと連携したフリンジ駐車場としてさらに有効活用していく方策について検討を行った。
・施設としての若宮パークの存続を優先し、運営形態の大胆な転換も含めた抜本的解決策を検討し、市の主導的役割のもと、5年程度を目途として若宮パークを新たな姿へと再生させる。	・本市主導のもと、令和5年度以降の若宮パークの再生に向けての抜本的解決策について、若宮大通駐車場(株)をはじめとした関係者と協議を行った。

団体名(若宮大通駐車場株式会社)

○法人の財務状況
(貸借対照表から)

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産総額	3,060,140	3,030,001	2,987,984	2,906,526
負債総額	2,180,185	2,145,499	2,122,982	2,090,864
純資産総額	879,955	884,501	865,002	815,662

(損益計算書から)

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
経常収益	223,564	220,647	199,160	156,326
経常費用	214,665	211,577	219,630	202,741
経常損益	8,899	9,070	▲ 20,469	▲ 46,416
経常外損益	0	▲ 1,162	0	0
当期純損益	4,678	4,547	▲ 19,499	▲ 49,340

○財政的リスクの状況

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
債務超過額	0	0	0	0
損失補償、債務保証及び 短期貸付けの合計額(A)	0	0	0	0
標準財政規模(B)	642,220,441	644,498,894	646,827,243	654,510,356
(A)／(B)	0	0	0	0